

2026年度（令和8年度）事業計画書（案）

グループホームみどり荘・第2みどり荘・第3みどり荘
こすもす・さくら・あじさい・第2あじさい

1 施設を取り巻く現状と課題

（1）事業の種類及び利用定員

外部サービス利用型共同生活援助事業 33名（令和8年5月まで）
28名（令和8年6月から）

（2）県市町村等からの委託、補助事業等

なし

（3）地域における公益的な取組

- ① 事業所周辺地域の落ち葉拾い及び草刈りによる環境整備
- ② 古切手回収及びカーブミラー清掃による地域貢献活動

（4）運営方針

令和8年度は事業形態が外部サービス利用型ホームに統合した単独運営となる中、職員が安心して働ける環境づくりに努め、チーム力の向上を図ることで、「ご利用者の笑顔あふれる暮らしを支える」ことを目指し、以下の取り組みを推進します。

- ① 職員一人ひとりが自分の役割を理解し、チームとして支援の質を向上に取り組むことで、ご利用者への統一的で質の高い支援につなげます。あわせて、ご利用者の多様なニーズに応じた支援や地域との連携を強化し、支援方針（共通キーワード）を明確化し、日々の実践及び改善に活かすことで、組織の一体感を高めめます。
- ② 意思決定支援及び合理的配慮を重視するとともに、個々の希望や心身の状況に沿った生活支援に取り組めます。なお、建物の経年劣化については、移転計画を踏まえ、現施設の安全確保と移転後の円滑な運営を実現する設備管理体制を構築します。
- ③ 利用率向上及び加算取得を通じて安定的な経営基盤を確立するとともに、業務の明確化、OJTを中心とした職員育成、情報共有の標準化を進め、質の高い支援と働きやすい職場環境の両立に取り組めます。
- ④ 地域との関係づくりやサービスの透明性向上を推進し、ご利用者・職員・地域すべてにとって安心・信頼できる事業所運営に取り組めます。また、外部サービス利用型ホームとしての運営体制の定着を図り、安定的な事業運営の確保に取り組めます。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	業務分担の明確化
現状と課題	臨時職員や継続雇用職員など、多様な働き方が進む中、職務分掌により一定の業務分担は整理されている。しかし、令和 8 年度から事業形態を外部サービス利用型ホームへ統合や新たに食事調理支援等の業務が加わるため、限られた人材で業務を円滑に遂行するには、役割分担や業務内容の更なる精査が必要である。
取組の方向性	職務分掌の見直しに加え、業務マニュアルを新たに整備し、業務内容や役割を明確化する。これにより、職員が業務の見通しを持って安心して働ける環境を整備するとともに、業務の属人化を防ぐ。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	組織体制の強化を図りチーム力を向上
現状と課題	当事業所は少人数体制で運営しているため、職員一人ひとりのスキル向上に加え、チームとして支援の質を高めていくことが重要である。また、令和 8 年度から事業形態を外部サービス利用型ホームへの統合や新たに食事調理支援の業務が加わるため、支援内容の見直しが必要となることから、標準的な支援方法の精査および組織としての統一した支援体制の強化が求められている。
取組の方向性	支援マニュアルの整備を行い、全職員への周知・共有を徹底することで、支援方法の標準化を図る。あわせて、OJT を通じた実践的な育成を行い、職員間での学び合いを促進することで、組織体制の強化とチーム力の向上につなげる。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	情報共有・連携の仕組み作り
現状と課題	情報共有の方法やタイミングにばらつきがあり、業務の混乱や職員の負担感につながっていることから、働きにくさの要因となり、定着率の低下につながるおそれがある。
取組の方向性	情報共有ルールを統一し、標準化することで、関係者間で必要な情報が確実に共有される体制を整備し、業務の円滑化と職員の負担軽減につなげる。

実施施策	職員の健康維持・促進
現状と課題	健康経営としての健康維持・促進の観点から、段階的に環境整備を図ることが必要である。
取組の方向性	① 感染症予防対策としてのマスク配布と、社食の導入による栄養面の支援を通じて、職員の健康維持・促進を継続して取り組む。 ② 業務の状況や人員体制を踏まえて勤務調整を行い、連続休暇の取得を促進することで、心身のリフレッシュを図り、健康保持を通じて就業継続につなげる。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	タイムテーブルによる業務可視化
現状と課題	外部サービス利用型ホームへの統合に伴い、外部型はこれまで業務の進め方や時間配分が整理されておらず、業務の偏りや負担感が生じやすい状況である。
取組の方向性	タイムテーブルを整備・共有し、業務の流れを可視化することで、業務の円滑化と働きやすい職場環境の整備につなげる。

(2) 利用児者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	サービスの質の向上
現状と課題	利用者の重度化・高齢化や障がい特性の多様化が進む中、専門的な支援力の向上が求められており、特に意思決定支援や合理的配慮の重要性について、全職員で共通理解を深めていく必要がある。
取組の方向性	正規職員・非正規職員問わず外部研修への参加を継続的に推進し、受講後は復命研修により学びを共有することで、事業所全体の支援力向上につなげる。

イ 安全安心で快適な暮らしを保証し、利用児者の満足度を高める。

実施施策	安全安心な生活に向けたリスクマネジメントの強化
現状と課題	ヒヤリハットの取り組みは行っているものの、報告や共有が十分に定着しているとは言えず、現場の気づきが組織全体で活かされにくい状況が見られる。また、報告様式についても、現場で記入・提出しやすい内容や方法となっているか十分に検証できておらず、より活用されやすい様式への工夫や見直しが課題である。
取組の方向性	内部研修を継続するとともに、現場の声を踏まえて報告様式を工夫し、ヒヤリハットを共有しやすい仕組みを整えるこ

	とで、安全対策の実効性向上につなげる。
--	---------------------

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域との連携強化
現状と課題	地域連携推進会議は令和 7 年度から義務化されており、令和 7 年度は実施体制を整えたが、地域との関係づくりや事業所への理解促進をさらに深めるため、継続的な実施と内容の充実が課題である。
取組の方向性	地域連携推進会議を継続して実施するとともに、意見交換や見学対応の内容を充実させ、地域との関係づくりと相互理解の一層の促進を図る。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	利用率の維持向上による安定した収入の確保
現状と課題	利用率は向上しているものの、令和 8 年度に事業形態を外部サービス利用型ホームへの統合を踏まえると、定員に達しない状況が予測される。その中で、体験利用の受入や地域生活移行支援の体制を整備することが、利用率向上および加算取得による収入確保にもつながる重要な課題である。
取組の方向性	令和 7 年度に整備した体験利用や地域生活移行支援のマニュアル等を職員へ周知・活用し、利用促進と加算取得を通じて、利用率向上と収入確保を図る。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	建物の老朽化への対応
現状と課題	経過年数の長い建物には、移転が決まっているホームや今後移転の検討が必要なホームがある。利用者が安心して生活できる環境を維持するため、計画的な修繕や維持管理体制の整備が必要である。特に、法定点検対象外の設備については、点検の仕組みが未整備であることが課題である。
取組の方向性	法定点検対象外の設備（給湯器など）も含め、現施設の安全確保と設備の適正管理を図りつつ、移転後の運営に対応した設備管理体制を構築する。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	事業所の支援方針の確立
現状と課題	事業所としての方針が明確に整備されておらず、職員間で共通の価値観や目標の認識が十分に形成されていないため、

	日々の実践や改善に十分に結びついていないことが課題である。
取組の方向性	全職員で意見を出し合い、事業所の特性や役割に応じた共通キーワードを掲げた支援方針を確立する。

3 目標利用率

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/月
外部サービス利用型	33名	73%	73%	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	73%

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/月
外部サービス利用型	28名	－	－	86%	86%	86%	93%	93%	93%	100%	100%	100%	100%	93.7%

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名 称	執行見積額
こすもす給湯器設置費用	3 0 0

5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

(単位：千円)

名 称	執行見積額
こすもす消防設備機器工事	3 0 0
こすもすホームセキュリティ設置費用	5 0
あじさい・第2 あじさいガードシステム設置費用	6 6

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名 称	執行見積額
なし	

令和8年度 年間行事等計画書（案）

グループホーム外部サービス利用型

	行事等	保健	外部・内部研修会	地域貢献活動
4月	花見交流会	胸部X線撮影	体験利用・地域生活移行支援マニュアル研修（内部） 業務・支援マニュアル研修（内部）	古切手回収（2ヵ月毎） 事業所周辺草刈り
5月	春季外泊		苦情対応マニュアル研修（内部）	事業所周辺草刈り
6月	一泊旅行（選択制）		防災BCP机上訓練（内部） 防災BCPシュミレーション訓練（内部）	古切手回収 カーブミラー清掃
7月	納涼祭		虐待防止研修（内部） 身体拘束適正化研修（内部）	事業所周辺草刈り
8月	夏季外泊 避難訓練	特定健診及び健康診断	AED研修（内部）	古切手回収 事業所周辺草刈り
9月			ヒヤリハット研修（内部） 全国グループホーム研修会（外部）	事業所周辺草刈り
10月	ビッグフェスタ	子宮がん検診	九州地区知的障害関係施設長等研究大会（外部） 社会福祉施設等管理職員研修会（外部） 全国知的障害職員研修会（外部） 感染症BCP机上訓練（内部）	古切手回収 事業所周辺草刈り
11月	一泊旅行（選択制）	胃がん検診 インフルエンザ予防接種	感染症BCPシュミレーション訓練（内部） 意思決定支援研修（外部） 社会福祉施設等中堅職員研修（外部） 強度行動障害者支援者養成研修（外部）	事業所周辺草刈り
12月	冬季外泊 避難訓練	インフルエンザ予防接種		古切手回収 カーブミラー清掃
1月	新年会		ハラスメント対策講習会（外部） 障害児・者施設職員研修会（外部）	
2月	地域連携推進会議		九州地区知的障害関係合同研修会（外部）	古切手回収
3月				古切手寄付 事業所周辺草刈り